

経営比較分析表（令和4年度決算）

群馬県 小児医療センター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	16	対象	I 未訓	臨
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
1,930,976	19,004	非該当	非該当	7：1

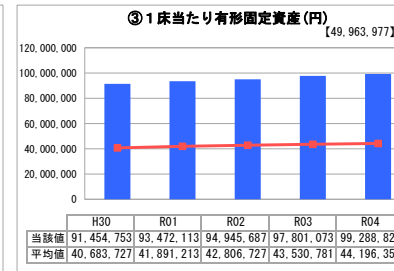
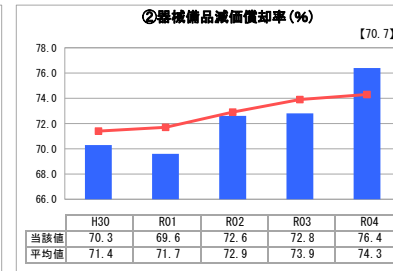
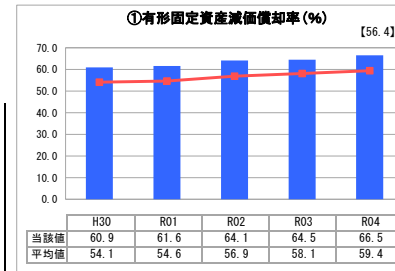
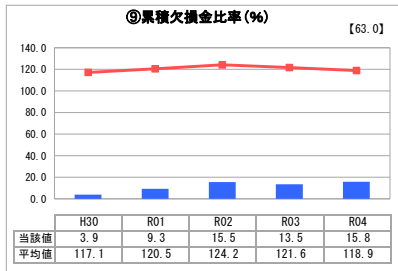
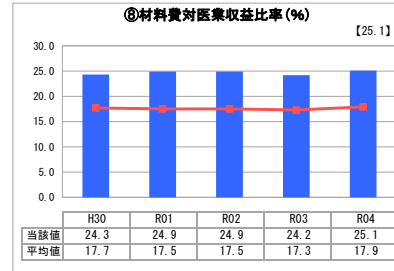
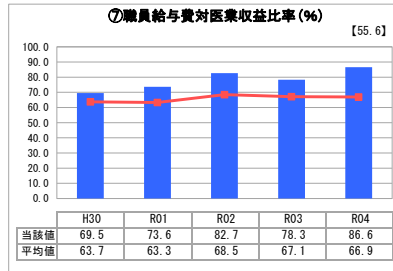
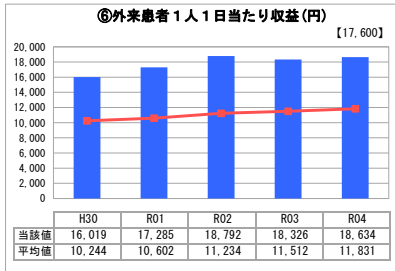
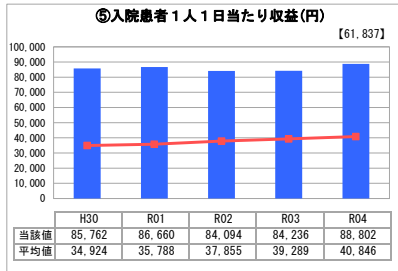
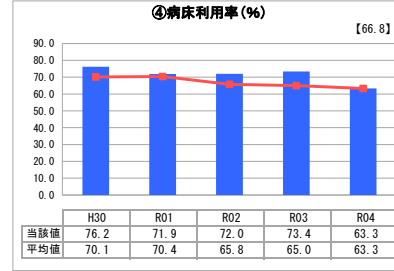
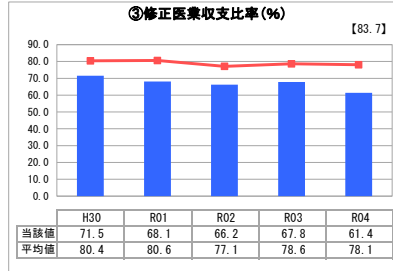
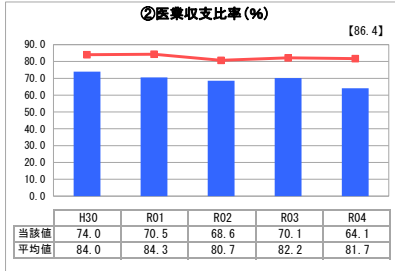
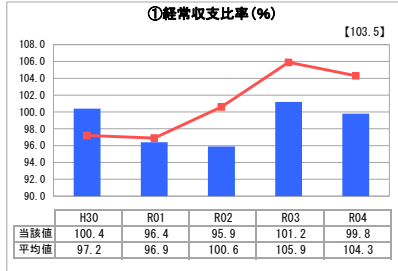
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（総核）
150	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	150
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般+療養）
123	-	123

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
-	類似病院平均値（平均値）
[]	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）	年度
① 業務効率化・運営強化（従来の形態・ネットワーク化を含む）	-
② 地方独立行政法人化	-
③ 指定管理者制度導入	-

I 地域において担っている役割
 県立病院の果たすべき役割は、地域において必要とされる医療のうち、採算性等の面から他の医療機関による提供が困難な医療を継続して提供することである。
 小児医療センターは、県内唯一の小児専門病院として、高度で先進的な周産期・小児医療を安全に提供するとともに、他の医療機関では治療することができない重篤な疾患の患者を受け入れ、県内全域の三次医療及び北毛地域の二次救急医療に対応し、本県小児医療の最後の砦としての機能を担っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

（時系列比較）患者数の減少による医業収益の減、光熱水費等の増加による医業費用の増により、①経常収支比率、②医業収支比率は令和3年度決算から悪化し、経常収支は赤字となった。

（平均値比較）類似病院平均値と比較して、⑤⑥患者1人1日当たり収益が高い一方、⑦職員給与費対医業収益比率、⑧材料費対医業収益比率の指標は平均よりも高く、業務の効率化や材料購入方法の見直しによる費用の削減が今後の課題となっている。

2. 老朽化の状況について

（時系列比較）投資抑制方針の下、①有形固定資産減価償却率、②器械備品償却率は増加傾向となっている。今後も、適正投資額を定量的に計測した上で、高度・専門医療の提供に必要な設備整備を確実にし、キャッシュ・フローの健全化を目指す。

（平均値比較）③1床当たり有形固定資産が類似病院平均値よりも高く、類似病院と比較すると投資が大きくなっている。これは、県内唯一の小児専門病院として、高度で先進的な周産期・小児医療を安全に提供するために必要な医療設備の整備をした結果であると考えられる。

全体総括

令和4年度は赤字決算となったことから、累積欠損金比率は令和3年度より悪化した。類似病院平均より良好な状態を継続している。
 収益性の経営指標が類似病院平均値より高いのにも関わらず、医業収支比率が類似病院平均値より低いのは、材料費対医業収益比率や1床当たり有形固定資産など支出に関する経営指標が類似病院平均値より高くなっているためである。
 今後は、「他の医療機関による提供が困難な医療を継続して提供するため」という県立病院の役割を果たしつつ、価格交渉や購入方法の見直しによる費用削減を図り、医業収支の更なる改善を目指す。

※1 類似病院平均値（平均値）については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。